診　断　書（成年後見制度用）

（別紙２）

（表　面）

裏面に続く

|  |
| --- |
| １　氏名 　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　男・女　　　　　　　　年　　　月　　　日生（　　　　歳）　　住所 |
| ２　医学的診断　　診断名（※判断能力に影響するものを記載してください。）　　所見（現病歴，現在症，重症度，現在の精神状態と関連する既往症・合併症など）各種検査長谷川式認知症スケール　　　　　（□　　　　点（　　　　　年　　月　　日実施）　□　実施不可）ＭＭＳＥ　　　　　　　　　　　　（□　　　　点（　　　　　年　　月　　日実施）　□　実施不可）脳の萎縮または損傷の有無□　あり　⇒（□　部分的にみられる　　□　全体的にみられる　　□　著しい　　□　未実施）□　なし　知能検査その他短期間内に回復する可能性　　□　回復する可能性は高い　　　□　回復する可能性は低い　　　□　分からない（特記事項）　　　 |
| ３　判断能力についての意見　□　契約等の意味・内容を自ら理解し，判断することができる。　　□　支援を受けなければ，契約等の意味・内容を自ら理解し，判断することが難しい場合がある。　□　支援を受けなければ，契約等の意味・内容を自ら理解し，判断することができない。　□　支援を受けても，契約等の意味・内容を自ら理解し，判断することができない。（意見）※　慎重な検討を要する事情等があれば，記載してください。 |
| 判定の根拠1. 見当識の障害の有無

□　あり　⇒（□　まれに障害がみられる　□　障害がみられるときが多い　□　障害が高度）□　なし　　1. 他人との意思疎通の障害の有無

□　あり　⇒（□　意思疎通ができないときもある　□　意思疎通ができないときが多い□　意思疎通ができない）□　なし　　1. 理解力・判断力の障害の有無

□　あり　⇒（□　問題はあるが程度は軽い　□　問題があり程度は重い　□　問題が顕著）□　なし　　1. 記憶力の障害の有無

□　あり　⇒（□　問題はあるが程度は軽い　□　問題があり程度は重い　□　問題が顕著）□　なし　　1. その他（※上記以外にも判断能力に関して判定の根拠となる事項等があれば記載してください。）

　　　　　　　　　　　　参考となる事項（本人の心身の状態，日常的・社会的な生活状況等）　　※　「本人情報シート」の提供を　□　受けた　　□　受けなかった　（受けた場合には，その考慮の有無，考慮した事項等についても記載してください。） |

以上のとおり診断します。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　　月　　　日

（裏　面）

　病院又は診療所の名称・所在地

担当診療科名

　担当医師氏名 　　　印

**【医師の方へ】**

※　診断書の記載例等については，後見ポータルサイト（http://www.courts.go.jp/koukenp/）からダウンロードできます。

※　参考となる事項欄にある「本人情報シート」とは，本人の判断能力等に関する診断を行う際の補助資料として，本人の介護・福祉担当者が作成するシートです。提供があった場合は，診断への活用を御検討ください。

※　家庭裁判所は，診断書を含む申立人からの提出書類等に基づき，本人の判断能力について判断します（事案によって医師による鑑定を実施することがあります。）。

**診　断　書　附　票**

 　　　　　 　※　診断書とともに記入してください。

家庭裁判所から鑑定の依頼があった場合，お引き受け願えますか。

**□　鑑定を引き受けることが可能である。**

病医院の住所　　　　　　　　　　　　　　　　　　　電話

医師の氏名

担当診療科名　□神経科　□精神科　□神経内科　□心療内科　□脳神経外科

□内科　□その他（　　　　　　　　　　　 　）

(1)　書面による依頼を受けてから鑑定書を提出していただくまでの期間は，どのく らい必要でしょうか。

□ ２週間　　□ ３週間　　□ ４週間　　□ その他（　　　　　週間）

（一般的には，約１か月以内に鑑定書を提出していただいています。）

(2)　鑑定料はいくらでお願いできますか。

□ ３万円　　□ ５万円　　□ その他（　　　　　万円）

（通常５万円でお願いしています。特殊な事情で見込額が５万円を超える場合は，事情を記入してください。）

**□　鑑定を引き受けることはできない。**

**□　次の医師を紹介する。**

病医院等の住所　　　　　　　　　　　　　　　電話

　　病医院等名称

医師の氏名